

2026年



給食だより 1月号

吹田市立岸部第二小学校

あけましておめでとうございます。冬休みも終わり、3学期が始まりました。寒さがきびしい時期ですので、かぜに負けないためにも、栄養バランスの良い食事と十分な睡眠をとって、寒さを元気に乗り切りましょう。

受け継ごう 日本の食文化

雑煮

雑煮はもともと年神様に供えたその土地の産物ともちを煮たものでした。東日本は角もち、西日本は丸もちが多く、すまし汁仕立てやみそ汁仕立て、もちの中にあんこが入っていたり、地域によっていろいろです。



七草がゆ

日本では、春の新芽、新しい命を摘んで食べ、その力をいただくことで病気を防ぐという習慣がありました。七草には、冬に不足しがちな栄養が多く含まれており、おかゆの中に入れて食べます。お正月でつかれた胃を休める意味もあります。



※スズナ(カブ) スズシロ(ダイコン)

かがみもち

かがみもちは、新年の神様である年神様をお迎えするためのお供え物です。お正月には、家族の健康や幸せを願って、かがみもちを供えます。1月11日にかがみびらきをして、お雑煮やお汁粉にして、いただきます。



1月24日(土)~30日(金)は全国学校給食週間

いつも食べている給食の歴史を学び、給食について考えてみましょう。日本の学校給食の歴史



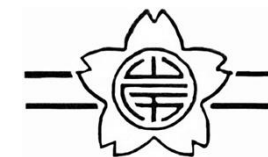
給食の始まり

1889年(明治22年)10月、山形県鶴岡町(現・鶴岡市)の忠愛小学校で、お弁当を持ってこれない子どもたちのために、「おにぎり・焼き魚・漬物」といった昼食を出したといわれています。

戦争と給食再開

戦時中の食糧不足のために給食が中止になった時期がありましたが、1946(昭和21)年12月24日に学校給食が再開されました。この日が戦後の学校給食開始の記念日ですが、冬休みに入るため、1ヶ月遅らせて1月24日が給食記念日になり、30日までの1週間を「全国学校給食週間」としています。

岸部第二小学校の給食の歴史



1973(昭和48)年創立
2017(平成29)年、フルドライシステムの新給食棟が完成
※フルドライシステムとは、床が常に乾いていることを前提としたものです。

